

6-01 快適な住環境と自然環境

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ●地球環境を守るために、自然にやさしい生活を送ること ●市民が、快適で安全な生活環境で暮らせるまちにすること ●安全で安定した水道水を供給し続けること ●持続可能な下水道事業を推進し続けること ●冬季の安全な道路環境確保のため、地域との協働による環境整備を進めること
-----	---

6-01-01 生活環境

5年後の目指す姿

- 留萌市環境基本計画の理念が浸透し、市民や企業の環境問題や環境保全に対する意識が高まっています。
- 市民のごみの減量化に対する意識がさらに高まっています。
- 市民のボランティア活動により、環境美化が図られています。
- 空き地や空き家の適正管理について、所有者の理解が深まり環境の保全や危険防止が進んでいます。
- 狂犬病予防注射の実施率が高まり、猫などのペットの飼養についても飼い主のマナーが向上しています。
- エゾシカやアライグマなどの有害鳥獣を駆除することにより、農業被害の軽減や市民生活の安全が図られています。

現 状 と 課 題

- 留萌市環境基本計画を、市民や企業に浸透させることが課題となっています。
- ごみの分別区分について、市民の認識は高まっていますが、まだ不適正な排出があり、資源の再利用・再資源化による有効利用のためにも市民に理解してもらえる取り組みが必要です。
- 清掃活動を毎年実施していますが、ごみの投棄や海岸漂着ごみは減少していません。
- 空き地や空き家の適正管理については、所有者の相続放棄や倒産企業、所在不明などにより対応に苦慮しています。
- 犬の放し飼いの苦情はほとんどありませんが、野良猫に対して無責任な餌やりの苦情が増えています。
- エゾシカの駆除は猟友会に依頼して実施しているが、会員の高齢化と会員数が増えない状況にあります。

前 期 の 方 向 性

- 留萌市環境基本計画は10年間の計画期間として公表しますが、定めた目標の進捗状況を検証し、環境意識の向上に努めていきます。
- ごみの分別区分の徹底と必要性を周知することで、ごみの減量化や再利用・再生利用する意識を高めていきます。
- 毎年行う町内清掃活動及び各種団体による海岸清掃活動により、市民の環境美化への意識を高めていきます。
- 空き家や空き地の不適正管理については、空家対策特別措置法や条例に基づき継続して指導を行っていきます。
- ペットの飼養について、飼い主のマナーを向上させていきます。
- 有害鳥獣駆除については、計画に基づき、猟友会と協議しながら実施していきます。

6-01 快適な住環境と自然環境

数 値 目 標		※現状：H27					
指 標 項 目		現状	H29	H30	H31	H32	H33
市民一人が1日に出す家庭ごみ量	(g)	526	511	510	509	508	507
ごみのリサイクル率	(%)	51	53	53	53	53	53
狂犬病予防注射接種率	(%)	74.2	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
エゾシカ駆除頭数	(頭)	117	120	120	120	120	120

6-01-02 省エネルギー・再生可能エネルギー

5年後の目指す姿

- 市民や企業が電力量や化石燃料などの消費削減に取り組むことにより、自然と共生する意識が図られています。
- 再生可能エネルギーの地産地消への機運が高まっています。

現 状 と 課 題

- 日常生活や事業活動の中で、電力量や化石燃料の消費削減が図られていますが、国が示す地球温暖化対策計画の目標数値達成のため、さらなる削減が必要です。
- 再生可能エネルギーの導入に向け、地域資源の賦存量を的確に把握し、地域特性に応じた適正な技術を選択することにより、地域の活性化につなげることが必要です。

前 期 の 方 向 性

- 省エネルギーの意識を市民・企業・行政が一体となって高めることにより、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の削減を図っていきます。
- 市民や事業者に対する再生可能エネルギーの普及啓発を行い、市民・事業者が再生可能エネルギーの導入に取り組みやすい環境づくりに努めていきます。

数 値 目 標		※現状：H27					
指 標 項 目		現状	H29	H30	H31	H32	H33
1件当たり年間の電灯電力量	(kwh)	3,225	3,147	3,116	3,085	3,054	3,023

6-01-03 上水道

5年後の目指す姿

- 安全で安定した水道水の供給を維持しています。
- 老朽化施設の改築・改善が進んでいます。

現 状 と 課 題

- 現有施設の機能を停止することなく、計画的な事業を継続するため、水道事業経営の健全化を図る必要があります。
- 平成28年度までとしていた「沖見配水場改修事業」において、高区配水池の耐震補強の必要性から平成30年度まで事業を継続し、計画していた工事である1号配水池や4号配水池の補修及び場内フェンスや流量計室新設については、改めて検討する必要があります。

6-01 快適な住環境と自然環境

前期の方向性

- 水道事業会計の収支均衡による運営基盤の強化を図っていきます。
- 老朽化した施設の改築・更新を図り、安定した水道水の供給を行っていきます。

数値目標

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
配水池(容量)の耐震化率 (%)	58.2	58.2	68.5	78.9	78.9	78.9

6-01-04 下水道・浄化槽・し尿処理

5年後の目指す姿

- 資金不足等解消計画の確実な実施による持続可能な下水道事業経営が図られています。
- 人口密集地の管網整備が進んでいます。
- 東部地区の浸水対策が進んでいます。
- 下水道認可区域外において、合併浄化槽の普及により市民の快適で衛生的な生活環境の改善が進んでいます。
- 受益者負担の原則に基づき、適なし尿処理手数料収入により市内事業者による収集運搬と施設の維持管理が行われています。

現状と課題

- 留萌浄化センターは供用開始から24年が経過し、長寿命化計画に基づいた計画的な改築・更新が必要となっています。
- 未普及地区の解消に向け、管網整備を進めていく必要があります。
- 東部地区の浸水対策が必要です。
- 下水道認可区域外での合併浄化槽設置に対しては、浄化槽設置整備事業により補助しているが、自己負担が生じることから汲み取り便槽や単独浄化槽からの改善が進んでいません。
- し尿及び浄化槽汚泥の処理量は、公共下水道の普及や人口の減少により年々減少しています。
- し尿の収集量は平成14年度の半分以下となり、平成26年度からは市の委託事業として経費を見直し実施しています。
- 処理施設は昭和53年に建設され、施設の更新と併せて処理方法の検討が必要です。

前期の方向性

- 平成27年度に作成した、長寿命化計画に基づき計画的な改築・更新を進めていきます。
- 未普及区域の解消に向け、計画的管網整備を進めていきます。
- 東部地区の污水管の整備を進めていきます。(未普及対策)
- 昨今のゲリラ豪雨に対応した雨水管整備を進めていきます。(潮静地区)
- 生活排水処理基本計画に基づく下水道認可区域外における合併浄化槽の設置により、衛生的な生活環境と河川等の水質保全を図り環境への負荷を低減していきます。
- し尿及び浄化槽汚泥の処理量は年々減少していきますが、衛生的な生活を保つため、継続して実施していきます。

6-01 快適な住環境と自然環境

数 値 目 標		※現状：H27					
指 標 項 目		現状	H29	H30	H31	H32	H33
下水道普及率	(%)	84.4	84.4	84.4	84.4	86.7	88.1
下水道水洗化率	(%)	87.6	87.9	88.2	88.6	86.9	86.2
下水道認可区域外の合併浄化槽新設数	(基)	4	4	4	4	4	4
し尿収集量	(kl)	3,354	3,156	3,061	2,969	2,880	2,794

6-01-05 火葬場・墓地

5年後の目指す姿

- 終焉の儀式的場にふさわしい環境を維持しています。
- 新規墓地希望者に対して、区画の広さなどニーズに合った貸付けが行われています。

現 状 と 課 題

- 火葬場は、施設は留萌南部衛生組合が管理し、留萌市と小平町が共同で運営しています。
- 火葬場は、平成16年に共用を開始した施設であり、今後は老朽化に伴う施設整備・設備更新が必要となっています。
- 墓地使用者の高齢化や地方への転出により、返還される区画が増えることが予測されています。

前 期 の 方 向 性

- 適切な施設の維持・管理により、今後も景観や環境美化が図られるよう努めていきます。
- 返還される墓地を適正に管理し、墓地の使用希望者に貸付けを行っていきます。

数 値 目 標		※現状：H27					
指 標 項 目		現状	H29	H30	H31	H32	H33
墓地抽選会時の充足率	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

6-01-06 除 雪

5年後の目指す姿

- 市民との協働による効率的な除排雪により、安全な道路環境が整備されています。

現 状 と 課 題

- 現在、除排雪を委託している業者では、所有し老朽化してきている除雪機械等が徐々に更新されつつあります。
- 道路の雪出しは、啓発活動で一定の効果が見られるものの、依然として後を絶たない状況です。交通障害の原因となっており、引き続き啓発活動に取り組んでいく必要があります。
- ロードヒーティングは更新計画に基づき、老朽化が激しかった2路線で施設の改修を行いました。

6-01 快適な住環境と自然環境

前期の方向性

- 除雪機械については、国の補助金制度を積極的に要望しながら計画的な更新を行い、現行除雪体制を確保していきます。
- 地域・町内会との協議の場を設け、冬季の安全・安心な道路環境の確保のためコミュニティ除雪のPRを行っていきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
年間排雪量 (万m ³)	40	40	40	40	40	40
除雪に関する苦情件数(問合せを除く) (件)	130	130	130	130	130	130